信州大学サポーターズクラブメルマガ第74号 2019年11月29日

信州大学サポーターズクラブ

メ｜ー｜ル｜マ｜ガ｜ジ｜ン｜第74号｜

信州大学サポーターズクラブ事務局
2019年11月29日

…毎月月末に配信しています…

【 INDEX 】

シンダイ百科

信大からのお知らせ

信大名誉教授より皆さんへ

信大スイーツ

【 シンダイ百科 】

信州大学りんご部隊

今回は全学サークル「りんご部隊」を代表して隊長の井内晴佳さん（農学部２年）、副隊長の清水葵羽さん（農学部２年）にインタビューしました。りんご部隊は、現在安曇野市の９軒のりんご農家さんのもとで毎週末農作業のお手伝いを行っています。りんご部隊の設立のきっかけや、りんご収穫までの農作業の流れ、京都大学でのりんご販売などのお話しを伺いましたのでご紹介します。

インタビューの内容は次ページ以降をご覧ください。

【 信大からのお知らせ】

信州大学農学部環境講演会2019

信州大学農学部環境委員会では，毎年，環境講演会を開催しております。本年度は，橋本 渉 教授（京都大学大学院農学研究科）をお招きし，下記のとおり開催いたします。
多くの皆様のご参加をお待ちしています。

日　　時　：令和元年 12 月 20 日（金）13:00～14:30
会　　場　：信州大学農学部講義棟 2 階　23 番講義室
講　　師　：橋本 渉 教授
（京都大学大学院農学研究科）
講 演テーマ：「微生物を用いて SDGｓを達成しよう！！」
参 加 費 ：無料
申 し 込 み：不要 ※団体でのご参加の方は，団体名，人数を事前にお知らせください。

〇詳細はこちらをご覧ください↓
http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/news/2019/11/2019-8.php

---

信州上田 五大学リレー講座 2019
「未来学科」第 4 回講座「身を守るホームファッション」

現代生活において、「ヒヤリ」「ハッ」とする場面は身近なところに必ずあります。1 件の事故の裏には、300 件のヒヤリハットの場面が隠れていると言われています（ハインリッヒの法則と呼ばれます）。
本ワークショップでは、そのヒヤリハットの場面を参加者の生活の中の経験から再認識します。特に「火」や「熱」と関連して事故に繋がる原因を探りながら、その防ぐ方法を参加者と共に考えます。家庭の中の「大切なモノ」を「火」から守ることの大切さを考えましょう。この機会に、身を守る 1 つの機能としての「防炎」について、一緒に考えてみませんか？

〇日時：令和元年 12 月 7 日（土）　10：00～12：00

〇場所：信州大学繊維学部事務棟 34 番教室
（長野県上田市常田３－１５－１）

〇定員：50 名

〇詳細はこちらをご覧ください↓
https://www.shinshu-u.ac.jp/project/livinglab/news/136394.html

〇申し込みはこちらから↓

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdR2R6VRtxEpdXFHVJpTlygUXPz7UzlJ26bAZyqe37gc8FX7A/viewform

■〓〓〓【　信大名誉教授より皆さんへ　】〓〓〓■

理学部名誉教授 小野里 坦先生よりご寄稿いただきました。

詳細は次ページ以降をご覧ください。

■〓〓〓〓〓〓〓【　信大スイーツ　　】〓〓〓〓〓〓■

「雷鳥のお土産シリーズ」

　長野県では県鳥の「雷鳥」にちなんだお菓子がお土産用に販売されています。今回は「雷鳥」のたまごや、ふところをイメージしたお菓子など、様々な「雷鳥」のお土産菓子をたっぷりとご紹介します。

〇詳細は次ページ以降をご覧ください。

メルマガのバックナンバーはこちらから
http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/mail/

『信州大学サポーターズクラブメールマガジン』
編集・発行/信州大学サポーターズクラブ事務局
長野県松本市旭 3-1-1

【 Mail】koyukai@shinshu-u.ac.jp
【 H P 】http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/
【 F B 】https://www.facebook.com/shindai.koyukai

2019.11.29

信州大学サポーターズクラブ【シンダイ百科】第74号

　りんご部隊は安曇野地域を中心にりんご農家さんの農作業のお手伝いを行っているサークルです。もともと信州大学玉井名誉教授と理学部の学生がりんご農家さんの農作業のお手伝いを行っていたことがきっかけで、玉井教授の退職を機に活動は一旦終了となりますが、その後再びサークルとしての活動が始まりました。現在は農学部、工学部、繊維学部など様々な学部の学生が所属しています。

りんご部隊の活動期間は5月から11月中旬頃までで、毎週末に安曇野のりんご農家さんの農作業のお手伝いを行います。主な農作業は「花摘み」「摘果」「葉摘み」「収穫」です。それぞれの作業に注意すべき点があり、例えば「葉摘み」は、実が大きく育った頃、りんごの色付を良くするために日差しを遮る葉を摘む作業で、葉を摘む際は直接実の青い部分に日が当たらないように少しずつ葉を減らすことに注意するなど、それぞれの作業の難しさ、大切さを教えてくれました。

【農作業中の様子】

りんご部隊は作業報酬として農家さんから規格外のりんごや日給を頂いて活動しているため、時には農家さんから厳しく指導を頂くこともあるそうですが、その度にメンバー同士で話し合い、現在では「初心者である1年生には必ず上級生をつけて作業することや、指導できる上級生の参加が少ない作業には、1年生の参加を制限する」などの決まりを作り活動方法を工夫しているそうです。

　9軒のりんご農家さんの連絡窓口を務めている隊長の井内さんは「もともと農業系サークルに興味があった。りんご部隊は直接農家さんと関われるところ、実際に販売されているりんごの栽培に携われるところに魅力を感じ、貴重な体験ができそうだ」という理由から入部を決めたといいます。入部1年目は楽しさだけで活動に参加していたが、2年目となった今年はりんご部隊を運営することの大変さ、1年生の時に後輩を楽しませてくれた先輩方のありがた

みを感じると話していました。

【インタビューにご協力いただいた隊長：井内晴佳さん（右）、副隊長：清水葵羽さん（左）】

副隊長の清水さんは、みんなで作業に取り組むことはとても楽しく、部員全員が必ず安曇野の農家さんの力になりたいと１番に思わなくても、メンバーに会うために毎週集まって一緒に農作業を行った結果、安曇野のりんご農家さんを支えられていることがりんご部隊の好きなところだと話しくれました。

【勉強会後の交流会での集合写真】

写真は年に２回行われる勉強会後の交流会の様子です。キャンパスが離れているからこそ全体で集まる機会が少ないため、勉強会・交流会は貴重なイベントとなっているそうです。
ちなみに、勉強会では農作業の勉強や、りんごの食べ比べなどが行われます。

また、毎年１１月に行う京都遠征でのりんご販売も貴重な全体イベントの一つです。作業報酬である規格外のりんごを玉井名誉教授の母校である京都大学にて販売しています。長野県のりんごはとても人気があり、去年の京都遠征では１万個のりんごを販売したそうです。京都遠征は隊員たちにとって１年の活動を締めくくる大切な行事となっていますが、来年度以降大量のりんごを運ぶ手段が決まっていないため、りんごの輸送方法を見つけることが今後の課題だと話していました。

【京都遠征でのりんごの販売の様子】

　インタビュー中は、終始笑顔でりんご部隊の活動について話しくれたお二人。最後に宣伝したいことを伺うと、「多くの人に安曇野のりんごを味わって欲しい！！」と話していました。収穫時期になると全国各地から安曇野市にりんごを求めて訪れる人も少なくないそうです。今後も安曇野のりんごがより多くの人に届くように農作業のお手伝い頑張ってください！

信州大学サポーターズクラブメルマガ【名誉教授よりみなさんへ】第74号

教員時代の思い出と近況

小野里　坦

　ある種のフナは受精時に卵に入った精子の遺伝子を使わず、卵の遺伝子のみから子作りが始まる。従って子は全て雌でしかも母親とそっくりの遺伝子を持つクローンになることを知った。北大時代に卵の遺伝子のみから子供を作ったり、逆に精子の遺伝子のみから子供を作る試みがサクラマスで成功した。北大から農水省に移り、この技術を使って、魚類の全雌生産、全雄生産、不妊化等の実用化試験を行った。染色体を４セット持たせる４倍体化は新種合成にもつながる重要な技術である。手法は受精卵の卵割を１回阻止することで実現出来るが、その成功率は極めて低く世界中の研究者が苦戦していた。

　信州大学に来てからは卵割阻止のメカニズムを解明すべく院生の研究テーマとして取り組んだ。そのメカニズムは思いの外、複雑だったが遂に解明し博士論文としてまとめられた。

　現在は台湾で研究を行っている。台湾では長時間をかけて品種改良を行った優良養殖エビを作出しても、その種苗を中国に販売すると、すぐにそのコピーの種苗が廉価で販売されてしまうため、肝心の開発した処の種苗が売れなくなってしまう悩みを抱えている。そこで不妊の３倍体を作りたいとの要請を受け、４倍体を作成して通常の２倍体と交配して不妊の３倍体種苗を販売することを目標として、台湾台南大学の教授と共同研究を行っている。

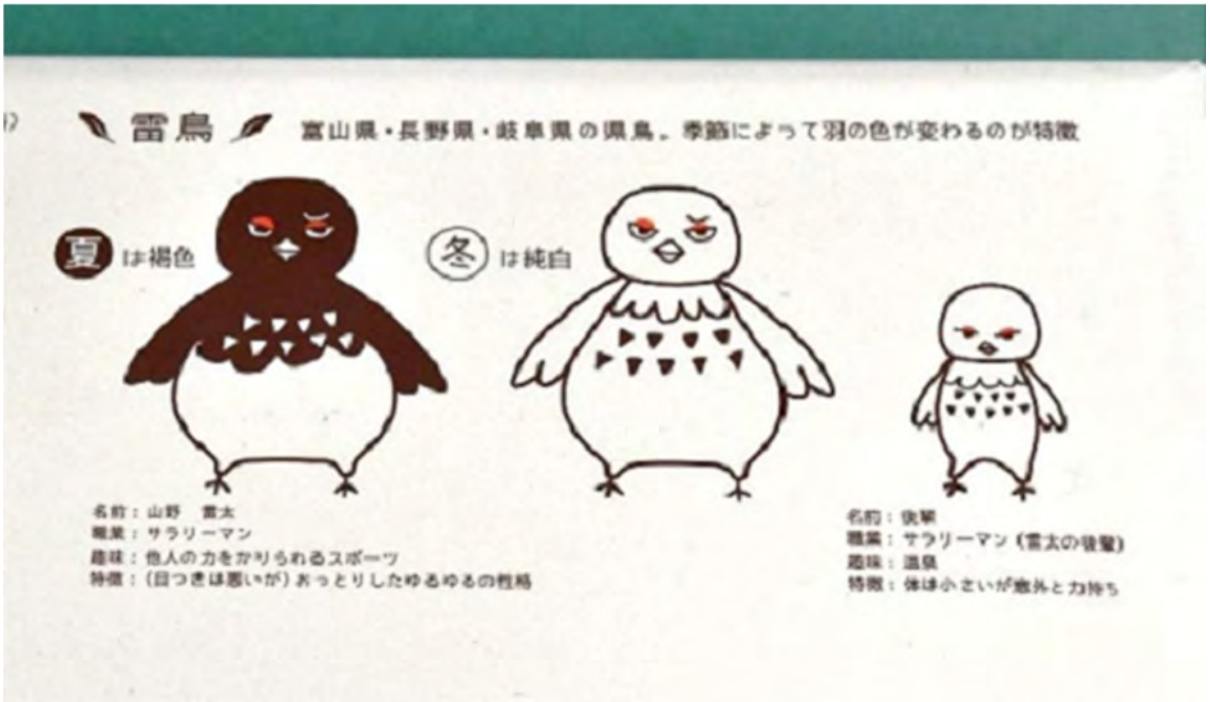
　カウンターパートの女性教授は年間数億の研究費を政府から支給され、実験施設、研究施設、ホテルのような宿泊施設、広大な実験養殖施設を自分の研究費で造っている。日本の大学の研究費と比較するとあまりの違いに愕然とする。

科学立国を唱えるものの、今のような貧しい研究政策では、日本が世界から取り残されてしまうことを危惧する。

信州大学サポーターズクラブメルマガ【信大スイーツ】第 74 号

今回は信州土産として定番の『雷鳥』シリーズをご紹介します。

種類も多く、どのお菓子も美味しそうです。



＜雷鳥の月曜日パッケージ裏面＞

パッケージの裏には、雷鳥の特徴が記載されているものもありますよ。

それでは、それぞれのお菓子をご紹介します。
まず、長野県のおみやげの定番である【雷鳥の里】。

パッケージにも大きく雷鳥が描かれていますが、箱の中にも雷鳥が入っていました。
ちなみに、包装の金色の紐はひとつひとつ手作業で結んであるそうです。

【雷鳥のたまご】
こちらは雷鳥のたまごをモチーフとしたお菓子です。1口サイズでかわいいですよね。

個包装は巣をイメージしているかのようなデザインになっています。

【雷鳥のふところ】
雷鳥のあたたかいふところをイメージしたお菓子です。

一つ一つがとても大きく食べ応えがありそうですね。

【雷鳥の月曜日】
最後にご紹介するのは雷鳥の１週間シリーズです。

週に３日働くサラリーマンという設定で、休日の月曜日・水曜日・土曜日・日曜日の４日間がそれぞれお菓子になっています。パッケージの雷鳥のイラストの表情がとても可愛らしいですね。お土産売り場によっては、雷鳥の１週間にちなんだイメージソングが流れているところもありますよ。

中身のクッキーの絵柄は曜日ごとに違うようなので、是非ほかの曜日も探してみてください。